

26 岩手県北地域における特に女性に着目した多目的コホート新規立ち上げの現状報告

研究代表者名： 岡山 明¹

共同研究者名： 小野田敏行¹、小川 彰²、吉田雄樹³、平盛勝彦⁴、中村元行⁴、川村和子⁵、
小山田恵⁵

施設名： 岩手医大衛生公衛¹、岩手医大脳神経外科²、岩手医大救急医学³、
岩手医大第二内科⁴、岩手県予防医学協会⁵

はじめに

女性の循環器疾患のリスク要因はいまだ十分には明らかでない。特に虚血性心疾患やクモ膜下出血のリスク要因に関する知見は少ない。そこで、岩手県北部および北東部に位置し人口約 25 万人が属する二戸、久慈、宮古の 3 保健医療圏において、市町村の行う基本健康診査を受診する住民を対象に、特に女性に着目し 2 万人規模のコホート集団を 3 年間で開始時調査を行って設定することとした。

対象および方法

対象地域 岩手県北部に位置する二戸保健医療圏(人口 68,134 人)および久慈保健医療圏(68,750 人)と、県北東部の宮古保健医療圏(104,173 人)は、それぞれ地理的条件から受診する基幹病院が限られるため、地域住民の受診行動が把握しやすい地区と考えられる。また、岩手県および岩手県医師会が実施している地域脳卒中登録およびがん罹患登録事業において良好な登録精度が確認されていることから、追跡調査が十分に可能と考え、この 3 保健医療圏を対象地域とした。

この地域において市町村の行う基本健康診査を受診する男女およそ 3 万 4 千人のうち、同意を取得できた者を対象とする。市町村の研究への協力率および受診者の同意取得率をそれぞれ 80%と仮定し、男 7 千人、女 1 万 5 千人よりなる 2 万人規模のコホート集団を設定する。

ベースライン調査 同一の健診機関が、日本動脈硬化縦断研究(J-ALS)の検査項目を基本健康診査時に標準化された検査法で行う。J-ALS にて示された運動と栄養に関する項目に加えて、生活習慣に関する設問を独自に設定する。さらに HbA1c および LDL コレステロールを全員に測定する。また、近年循環器疾患のリスク要因として注目される高感度 CRP、尿中微量アルブミン、B 型利尿ペプチド(BNP)を測定する。一部集団に頸部エコーを実施する。

追跡調査 対象者の死亡および転出は市町村の協力を得て住民基本台帳から把握する。死亡した対象者については管轄保健所にて死亡小票を閲覧してその死因を同定する。発症情報は脳卒中、虚血性心疾患、がんについて把握する。脳卒中の発症確認には、岩手県および岩手県医師会が平成 3 年より実施している岩手県地域脳卒中登録の情報を利用する。今回対象とする地域では脳神経外科学講座が登録精度の向上に努めており、良好な登録精度を保っている。虚血性心疾患は、現在岩手県では発症登録が行われていないため、心筋梗塞入院例を対象とする発症登録(全数)を整備する。また、24 時間以内の急性死例を死亡小票の閲覧により把握する。がんの罹患確認には、脳卒中と同様、対象地域での精度が良好な県および県医師会の登録事業による情報を利用する。また、ADL の低下状況を推定するため、広域組合による介護保険の認定情報の利用を予定する。

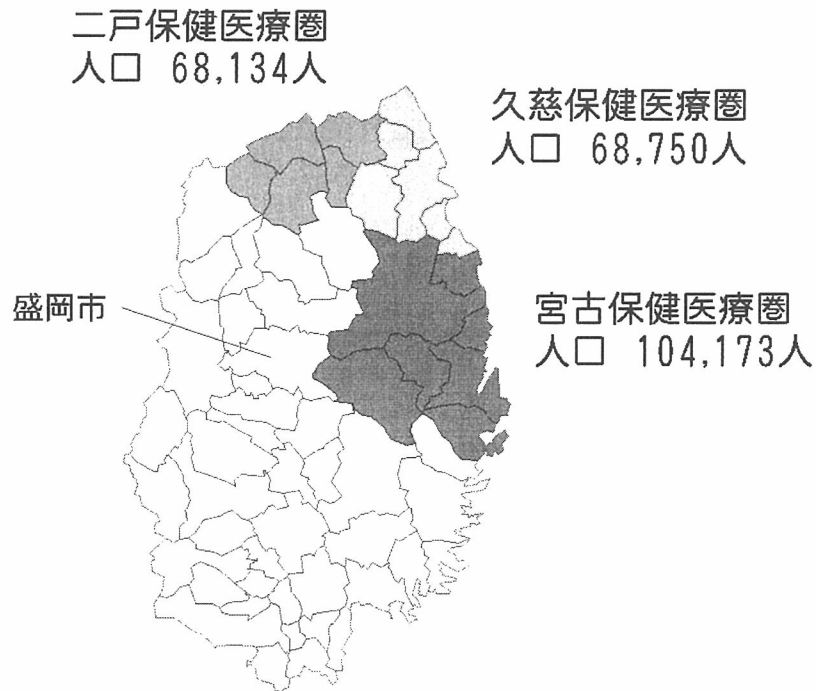


図 1

進捗状況

本年度は人口およそ7万人の二戸保健医療圏をベースライン調査の対象とした。管内5市町村のうち、4市町村(受診予定者約12,000人)の協力を得た。一戸町(受診予定者約4,000人)では、基本健康診査の会場に4~6名の調査員を配置し同意取得および問診聞取作業を行い、4月14日までにのべ6日間で受診者856名中、713名(83.3%)の同意を取得した。

さらに今後、6月より軽米町、7月より二戸市、8月より九戸村にて同様の調査を予定している。平成15、16年度には宮古保健医療圏7市町村(受診予定者約13,000人)、久慈保健医療圏6市町村(受診予定者約8,000人)を対象に調査を行う予定である。

まとめ

女性の虚血性心疾患やクモ膜下出血に関するリスク要因の検討を行うため、2万人規模の集団を設定した。二戸保健医療圏では、5市町村のうち4市町村の参加を得た。残る1町についても来年度の実施を検討している。

宮古、久慈保健医療圏でも同様に調査が実施できれば約3万人のコホート集団となる可能性がある。引き続きベースライン調査を実施し、対象数の確保に努めたい。